

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和8年3月9日(月) 15時00分～16時10分

場所：県立百合丘高等学校 会議室

出席者

委員：蛭原委員、前川委員、末吉委員、梶原委員、加藤木委員(校長)

事務局：政木副校長、熊谷教頭、礪波事務長、小林総括教諭、西総括教諭、城戸総括教諭、
菊地総括教諭、本間教諭(2学年リーダー)、河本教諭(1学年リーダー)

1 校長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。協議会の皆様におかれましては日頃よりご支援いただきありがとうございます。

9月の地域部会の際には文化祭の様子を御覧頂いた。10月には修学旅行、50周年記念式典を実施し、今年度の行事は百生戦を残すのみとなった。

3月2日には卒業式を実施し、卒業生は1万7千を超えた。

2月に令和8年度の入学者選抜を実施、今週末には入学予定者説明会を実施する。

本日は、年間評価について総括から報告し、奇譚のないご意見を頂いて最終評価を提出させていただくのでよろしく願いたい。

2 副会長あいさつ

本日もよろしくお願いいたします。

3 情報・意見交換

(1) 令和7年度 学校評価報告書 校内評価(実施結果)について

○小林活動・渉外GL

・別紙1-③について

生徒会活動は生徒が中心となる運営を行った。生徒の力を借りる上で部活動加入率を上げていくことが、行事の活発化にもつながることを感じた。

・別紙4-①について

様々な場面(特に学校説明会)で生徒が参加することが増えた。文化祭等の日程と重なっていることもあり、地域行事等に参加することが出来なかった。今後は文化部等と連携した取り組みを行っていく必要がある。

○菊地生活GL

・別紙2-①について

教育相談コーディネーターを各学年1名以上のメンバーを配置し、教員で共有して生徒支援につなげることができた。保護者からの要望が多岐に渡ることがあり、対応に苦慮する場面があった。

・別紙2-②について

サポートドックを活用し生徒に対してSC・SSWと協力をしながらアプローチができた。

・別紙2-③について

問題行動を未然に防止できるように指導をしていきたい。

○城戸 進路GLより

・別紙3-①、②について

多様化の中でたくさんの情報の整理が難しくなっている。(総合型選抜、共通テストの個人申込み等)説明会の内容の精査、学年団や保護者への情報共有を充実させた。今後の課題として、模擬試験の活用並びに、英語検定の活用等を伝えていきたい。

・別紙3-③について

特に1・2年において、総合的な探究の時間で個人の興味関心に応じた探究活動を行っている。課題解決力の育成については不十分なところがあり、アプローチをしていきたい。

3学年の進路実績について、4年生大学 65% (昨年同様)。今の3年生は「いける大学よりいきたい大学へ」という指導を行った。一般受験の生徒は15% (昨年度10%程度)と増えた。学年としてはよく頑張ったと認識している。

○政木 副校長より

・別紙5-①について

年間通して防止研修を実施できたが、ワークショップを実施することが出来なかった。

・別紙5-③について

働き方改革については、職員同士や管理職と職員のコミュニケーションが非常に活発になった。誰かの指示を待つのではなく、主体的に動く先生方が多く見られた。時間外労働が多いところが課題である。

○西 学習・管理GLより

・別紙1-①、②について

生徒の目標に沿って、丁寧な指導を行うことができた。課題としては教科横断的な指導までは進めることができなかった。電子黒板については、導入されて2ヶ月ほど。今後活用例を多く検討していきたい。

50周年式典については大きな成果があった。今後も同窓会との連携を密にしていきたい。

PTAについては、組織改善を進めている。次年度のPTA総会から新しい形で生徒の活動支援をしていければと思う。

・別紙5-②について

防災訓練について2年連続雨で予定通りの実施ができなかった。来年度はしっかりと実施したい。地域との活動として、やまゆり鑑賞会を実施した。今後の鑑賞会のために、やまゆり講習会に参加した。PTAともペンキ塗りを実施する。継続的に実施していきたい。

【質疑応答】

視点I 教育課程・学習指導について

○前川委員

・初めての出席でこれまでの経過をわかっていないところで申し訳ないが、部活動加入率は50%位とのことで、他の学校はどうか？

→本校は減ってきているのが現状。周りの学校はもう少し加入率の高さがある。

・今どきの生徒はなぜ部活動をやらないのか？

→アルバイトをしたい生徒が多い。3年の進路指導をしていて、「部活動をやっておけばよかった」という生徒はいる。結果的に3年になってもう少しやっておけばと思うところはあるものの、1・2年のときに大きなモチベーションになっているかというところでもない。

・進路に役立つというだけが動機づけだと良くないが、やりたいことがないということなのか。きつい練習に対して気持ちが向かないのか。

→コロナを経て、部活動に参加する生徒が減ったのではないかと。部活をやらないことがスタンダードになり、その後アルバイトなどをやるのが当たり前になった。

生徒だけでなくコロナ禍は人と接する機会が極端に減った傾向にある。一人で過ごすことができるようになった。しんどいことをやらなくても良いという風潮が広がってしまった可能性がある。

・大学では体育会系など上下関係が気になるからやらないという部分もある。なにか成果をだそうとすると、それなりに努力をしないといけない。それが嫌だということだと、なかなか続けられないのではないかと。百合丘の強い部活動はなにか。

→ダンス部、チアリーディング部だが、人数は減っている。

・部活動を指導される先生はいらっしゃるのか。

→年度によっては専門の方がいない部活動もあり、指導者がいないという課題はある。先生も忙しいからなかなか難しい。

○蛭原委員

・部活動加入率が低いのは、環境面は大きいのか。照明・冷風機など今年度は支援した。

→活動するには環境を整備していただいた部分で良くなった。ただ、練習が始まるとなかなかモチベーションが維持出来ない。現在情報が多いため、いろんなところに気持ちをもっていられる。SNSの普及から部活動に対する印象が難しくなった。嫌なことから逃げる生徒が多い。バスケットボール部では1年生は4人辞めてしまった。加入率を上げたくて指導を行ってきたが、なかなか難しい。

大学側では、部活動の経験の有無は総合型選抜等においてどれくらい影響があるのか。

○前川委員

・大学へ要望をだしてみてもよい。総合型において、面接+小論文、書類選考については基本的には高校の書類、面接時に物足りない感じはする。面接で話が進められる経験があるかないかは大きい。内申書も加味される大学もある可能性がある。

視点2 生活支援について

○梶原委員

丁寧に指導を進めていただいている。今後もより丁寧に、気付き育てる方向に指導を行ってほしい。

○末吉委員より

長沢地域への協力をいただき感謝申し上げます。ニコニコハーモニーについてご尽力いただいた。生徒や担当の先生方に大変大きな負担感をかけてしまった。来年度の実施はご意見をいただきながら、やっていきたい。

自転車について、警察からの指導が入る。事故のないように通学をしていただきたい。

○蛭原委員より

同窓会として日々できること、その機会をつくってほしいという学校からの依頼があった。

その件については、同窓会で検討して進めていきたい。

視点3 進路支援について

○梶原委員

・「行きたい大学へ」と進学していくのは良いことだと思う。一般受験が15%から広がるとよい。

○末吉委員

・就職はどのくらいいるか？

→若干名いる。縁故も多い。家庭の事情も含めて就職したいという生徒が多い。

○前川委員より 理系・文系はどちらが多いのか。

→文系が多く、理系は少ない。

(2) その他

○活動支援グループ

細かく決まった内容ではないが、スカートの下にジャージを履いている生徒を見かけると思うが、地域の方としてそれをどう思うか。

○梶原委員

・一般の保護者からの苦情もある。防犯の視点はあるのではないか。制服だけでという視点は保護者の方も含めて難しくなっている部分があるのではないか。

○蛭原委員

・企業のユニフォームを手掛けているが、一般的にホテルフロントはほとんどが男女ともにパンツスタイルとなっている。最初から選べない。スラックス履いてる女子生徒もいると思う。世の中的にパンツスタイルが流行っているのであれば、そちらを採用するのもあり。

OBとしては、昔はもっと緩かった。決まったジャージはなく体育は自由な格好していた。セーターもなかった。自由なことやっていたけど今社会人としてしっかりしているは多い。その部分では認める方向でも良いのでは。

○末吉委員

・バス停でジャージを履いている生徒もいる。最近はノーネクタイの所も多い。着方によってだらしくみえてしまう。見え方に課題がある。そこをクリアできるのであれば後は個性を伸ばしていただければよいのではないか。

○前川委員

・だめの理由は？→制服の着崩しから秩序が乱れるという懸念もある。

・線引が必要であるという点は良いと思う。ある程度の規則は必要である。果たして規範を乱すことになるかというところではないかと思う。髪の毛の色を染める等とは違うものではないか。大昔でも履いている生徒もいた。寒いときに素足は可哀想ではないか。制服の一部として認めることも検討できるのであればよいのではないか。

→みっともないが、防犯・防寒の視点のほうが大事なのではないか。ただ、なし崩しになってはいけない。短いスカートが主流の現在は難しい。

○蛭原委員

・3年生の卒業式で、頭髪等の指導を行っているのか？

→行っている。教室に帰って髪飾りをつける等は良いが、前日の予行でも、きちんとした格好をしていない生徒に対して指導を行った。

・生徒が自分でこういう姿で卒業したいと思うように、指導を行ってけると良いのではないか。

○加藤木 校長

・自分たちで節度を持ってルールを決めていけるような仕組みが大切なのではないか。

「埴輪ルック」という流行の時期。ルーズソックスが流行ったように、今はそれが流行っているのかという感覚。教員と生徒で考える部分だと考える。

4 その他

・令和8年度学校運営協議会委員について

○政木 副校長

・令和7年度評価報告書(実施結果)については欠席委員にもご意見を頂いたうえで、総合評価を3月末までに記入し県へ提出する。その後令和8年度の目標を作成する予定である。

各委員におかれては、令和8年度もこのまま引き続き委員をお願いしたい。